

小学校の給食施設について

1. 現状と課題

(1) 小学校（特別支援学校を含む）の給食実施方法

- 自校調理方式・・・学校内の給食室で調理した給食を当該校で提供する方式
- 共同調理方式・・・共同調理場で調理した給食を各校に配送する方式

	小学校	義務教育学校 (前期課程)	特別支援 学校	計
自校調理方式	139	1	6	146
共同調理 方式	北共同調理場	0	0	17
	垂水共同調理場	6	0	6
計	162	1	6	169

(2) 給食施設の老朽化

○小学校

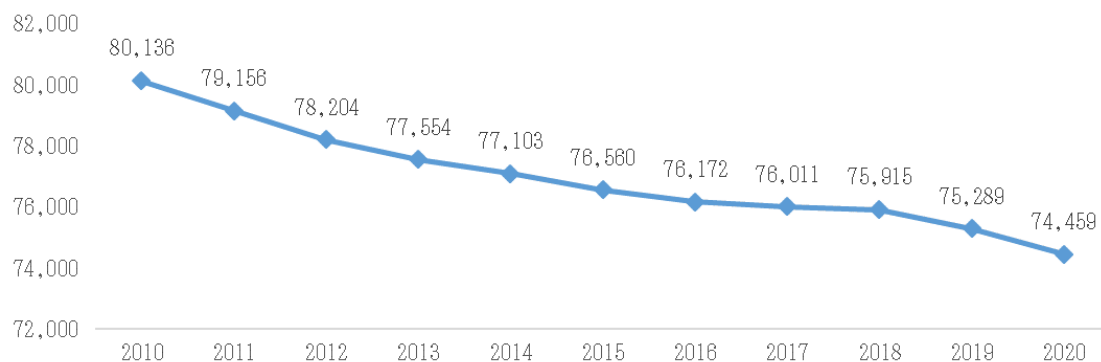
今後 10 年以内に共同調理場受配校及び給食室をドライ化している学校を除くと、半数以上の学校が築 50 年以上となる見込み

○学校給食共同調理場

- ・北共同調理場（2001 年設置） 築 21 年
- ・垂水共同調理場（1968 年設置、2003 年大規模改修） 築 54 年

(3) 児童数の減少

市立小学校の児童数の推移（2010～2020 年）



(4) 共同調理場の調理能力

- 北共同調理場 最大 7,000 食 現在 5,722 食
- 垂水共同調理場 最大 3,800 食 現在 3,463 食

2. 当面における小学校の給食施設整備について

- 現在、校舎の建替え等を予定している3校において、適切な給食提供方法の検討を行っている

①港島学園

前期課程と後期課程の校舎の一体化整備に伴い、中学校給食の全員喫食制への移行にあわせて給食提供方法を変更し、民間デリバリー方式により全児童生徒に温かい給食を提供することを検討中

②垂水小学校

校舎の建替え等に伴い、西校舎の完成（令和5年4月予定）にあわせて給食提供方法を変更し、垂水共同調理場から配送する予定

③春日野小学校

校舎の建替え等に伴い、市全体の学校給食施設の有効活用の観点から給食提供方法を変更する予定

3. 今後の課題

- 将来的に小学校給食をどのように提供していくのか検討が必要

【観点（例）】

- ・児童数の動向
- ・校舎の老朽化の進行
- ・学校施設等の有効活用（新たに生み出されるスペースの活用含む）など